

第5学年C組 音楽科学習指導案

授業者 大山 光子
研究協力者 吉澤 恭子、川辺 茜

1 題材名 声のひびき合いを感じて ～ハローシャイニングブルー～

2 子どもと題材

(1) 子どもについて

子どもたちは、4年生の歌唱表現の学習において、かけ合いや重なりのある二部合唱を経験してきた。教材曲「プパポ」「もみじ」では、同じ旋律や異なる旋律で追いかけていたり、音を重ねて歌ったりする楽しさを味わった。また、学習発表会では、二部合唱に挑戦し、二つの声部の音の重なりに心地よさを感じたり、きれいに重なっている合唱のよさを実感したりすることができた。

5年生になって新しい仲間と歌声をつくっていく段階では、歌詞の内容や曲想に合った表現をするよさを感じ始めている。自然で無理のない響きのある歌い方を意識している子どもが多い。

その一方で、「高い音域がよく出せない。」「他のパートにつられてしまう。」「声量のバランスがよくない。」など、声を合わせて歌いたいという気持ちはあるものの、どのように表現して歌えばよいのかという問いをもつまでには至っていない。

(2) 題材について

本題材では、**曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う**という資質・能力を高めることを目指す。

本題材で取り上げる教材曲「ハロー・シャイニングブルー」は、ト長調、4/4拍子、二部形式からなり、後半が二部合唱になっている。自然からのメッセージや自然の雄大さを表現している曲である。歌詞の内容から、自然への思いを感じ取ることもできる。後半の二部合唱の部分は、なだらかな起伏の旋律で構成され、強弱の細かな指定が特でないことから、表現の工夫も多様な広がりが見込まれる。子どもたちの曲に対するイメージや思いを、歌い方や強弱の変化等で表現することが可能であると考えられる。

また、後半の二部合唱の部分では、音の響き合いを味わいながら、曲想にふさわしい盛り上げ方を工夫し、主旋律と副次的な旋律の強さのバランスにも気を付けて表現することが期待できる。音の重なりや音色（声色）、音楽の縦と横の関係を歌い方の「学びのものさし」としながら表現をよりよくしていく姿を期待し、本題材を設定した。

(3) 指導について

いろいろな合唱形態での歌声を鑑賞することを通して、音や声の重なりなどが生み出すよさや美しさを感じ取ることを皮切りに、合唱の響きや演奏のよさを見いだす活動につなげていく。

作詞者からのメッセージ映像を視聴したり、歌詞を声に出して読んだりする活動を取り入れることで、曲のイメージを思い描くことができるようにしたい。捉えた曲の特徴を言葉で伝え合う活動は、抱いた曲のイメージを掘り下げ、曲の強弱による表現の工夫にもつながっていくと考える。また、先輩たちが歌った動画を視聴する場を設定することで、「こうなりたい」という憧れを抱くと共に、自分たちが思い描く合唱をつくり上げていきたいという意欲の高まりにも通じていこう。

互いが選んだ声部を仲間と歌い合っていく場面では、自分の役割を意識し、それぞれの技能を高めていくことができるように、少人数でのアンサンブル活動を取り入れる。

合唱をつくり上げていく段階では、無理のない発声を心がけ声の響き合いを意識することができるように、「演奏する役」と「聴き役」に分かれて歌ったり聴いたりする活動を取り入れていく。「聴く」場とよりよい表現を試していく「表現する」場との往復から音楽的な要素に着目した省察を掘り下げ、響き合いを意識した表現を目指す子どもの姿を期待したい。また、中学生の先輩たちをゲストティーチャーとして招き、よりよい表現のための歌い方のポイントを助言してもらったり、その場で実際に歌い方のモデルを示してもらったりする場を設定する。そして何よりも、声が響き合っている心地よさを「演奏する」側と「聴く」側の両者が実感できるリアルな場を大切にしていきたい。

3 題材の目標（記号は本校の資質・能力表による）

- (1) 曲想と音楽の構造との関わりについて理解すると共に、柔らかく無理のない発声で、各声部の歌声や全体の響きを聴き、周囲と調和しながら歌うことができる。〈A-6・12・15〉
- (2) 各声部の音の重なりや強弱に着目し各声部のバランスを考え、特徴にふさわしい表現を工夫しようとする。〔共通事項〕1・イ・A-3
- (3) 音や声の重なりに興味・関心をもち、自分と周囲が奏でる響き合いの美しさ、心地よさを味わいながら聴いたり演奏したりしようとしている。〈ア・エ〉

4 題材の構想 (総時数 6 時間)

曲の感じを生かして歌おう 「夢色シンフォニー」「花のおくりもの」
 曲想と旋律、フレーズなど音楽の構造との関わりを理解し、歌詞や曲想を生かして歌うことができる。

本題材

時間	学習活動 (・は予想される子どもの姿)	教師の主な支援	評価 (本校の資質・能力との 関連)
1	(1) いろいろな形態の合唱の響きを味わいながら聴く。 ・女声合唱は音がとても高いな。 ・テノールやバスという種類のパートもあるんだね。	・声の種類や形態によって、響きの感じや曲の印象が変わることに気付くことができるような曲の準備をする。	・それぞれの形態の合唱に興味・関心をもち、響きや演奏のよさを見だして聴いている。 〈エ〉
2	(2) 「ハロー・シャイニングブルー」を聴き、曲の特徴を捉え、イメージを共有する。 ・高い音が伸びていてさわやかな感じがするね。 ・追いかけてっこをしているところがあるよ。 ・ぼくたちもお手本になりたいな。	・曲のイメージを思い描くことができるように、作詞者からのメッセージ映像を視聴したり、歌詞を声に出して読んだりする場を設ける。 ・合唱したいという気持ちを高めたり、憧れをもったりすることができるように、先輩たちが歌った動画を視聴する場を設ける。	・曲の特徴を理解し、どのように歌いたいのか思いをもっている。 〈1・ア・A-3〉
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 80%;"> 学習課題 声のひびき合いを感じて歌おう。 </div>			
3 4	(3) 「ハロー・シャイニングブルー」の上声部・下声部を歌う。 ・上声部で高い音を伸ばすのが難しいな。 ・自分の声は低い音がよく出るから、下声部にしよう。	・各声部とも正確に歌うことができるように、楽譜を見ながら音符の長さや休符の場所を確かめる場を設ける。 ・自分の役割を意識し、それぞれの技能を高めることができるように、少人数でのアンサンブル活動を取り入れる。	・曲想と音楽のつくりとの関わりについて理解している。〈A-6〉 ・呼吸や発音に気を付けて、自然で無理のない、響きを意識した歌い方で歌っている。〈A-12〉
5 本 時	(4) 「ハロー・シャイニングブルー」を音の重なりや響き合いに気を付けて合唱する。 ・主旋律の上声部がよくきこえない。 ・音符の長さどおり伸ばしていないよ。 ・先輩の歌い方と何が違うのかな。	・よりよい表現ができるように、ゲストティーチャーの範唱を聴いたり、歌い方のポイントを助言してもらったりする場を設ける。 ・声の響き合いを感じて聴き合うことができるように、「演奏する役」「聴き役」に分かれて歌ったり聴いたりしながら対話する場を設ける。	・各声部の重なりが作り出す音の重なり的美しさに気付き、互いのバランスを考えながら合唱しようとしている。〈イ・A-15〉
6	(5) 「ハロー・シャイニングブルー」の表現を工夫して合唱する。	・相手意識をもって歌い、互いの表現のよさを実感することができるように、学年音楽の場を設定し、各学級の合唱を聴き合う活動を取り入れる。	・曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、各声部の歌声や全体の響きを聴いて歌っている。 〈イ・A-3・15〉

◎本題材で育む主な資質・能力
 曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、思いをもち自然で無理のない歌い方で歌う。
 各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う。(A-3・12・15)

響き合いを生かして 5年生 「君をのせて」 6年生 「つばさをください」「ぼくらの日々」
 曲の特徴にふさわしい表現を工夫しながら、よりよい音楽表現を目指し、思いをもって歌うことができる。

5 本時の実際 (5 / 6)

(1) ねらい 音の重なりや音楽の縦と横の關係に着目し、聴き合うことを通して、響き合いを感じながら声を合わせて歌うことができる。 (イ・A-15)

(2) 展開

○「学びのものさし」を働かせて省察したり、自律的に学習を進めたりするための支援

時間	学習活動	教師の支援 評価
5分	<p>① 学習課題を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲の後半、声量のバランスがあまりよくないな。 ・まだ、上のパートにつられてしまう。 	<p>○響き合いを意識した合唱をつくる ことができるように、前時までの 達成度を振り返る場を設定する。</p>
<p>学習課題</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">ひびき合いを感じながら、「ハロー・シャイニングブルー」を合唱しよう。</div>		
35分	<p>② 「ハロー・シャイニングブルー」を合唱する。</p> <p style="text-align: center;">全体 ↓ グループ (ゲストティーチャー) ↓ 全体 (聴き合う・歌い直す)</p> <p><予想される子どもの反応></p> <p>【自分のパートだけでなら歌える】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞も旋律もしっかりと覚えたから大丈夫。 ・上のパートにつられてしまうな。 ・下のパートは、ブレスが難しいな。 <p>【合唱になっても自分のパートが歌える】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つられないようにするには、きちんと発声しないといけない。 ・〇〇さんのとなりで歌うと、安心して歌えるね。 ・きれいにハモっているのかな？ <p>【他のパートの声も聴いて歌っている】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主旋律だから、よく聴こえた方がよいよ。 ・曲の盛り上がりは、フォルテにしたらよいんじゃないかな？ ・上下パートには、それぞれ役割があるみたい。歌い方が、違うのかな？ <p>【音の重なりやバランスが大切だと分かるが表現できない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バランスよく重なっているのかな？ ・先輩たちの歌い方をまねしたらよいかもしれない。 <p>【音の重なりやバランスを意識して歌っている】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上下パートの声量のバランスがちょうどよかった。 ・追いかけるパートがよく聴こえるように、伸ばす音は強くしない方がよいね。 ・声を合わせて歌うためには、ブレスをそろえることが大切なんだよな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の中で一緒に歌ったり、アドバイスをしてもらったりするゲストティーチャーを紹介する。 ・一人一人が自信をもって歌うことができるように、響きを意識して発声ができているときは全体に紹介し、価値付ける。 ・音色、リズム、反復などの音楽を形づくっている要素に気付くことをきっかけに、子どもたちがどのように歌いたいのか、その働きが生み出す面白さやよさにつながるような問いかけをしていく。 <p>○音や声が重なるということがどのようなことなのか実感できるように、声の響きを意識して歌っている子どもをモデルとして取り上げたり、ゲストティーチャーの範唱を提示したりする。</p> <p>○声の響き合いを感じて聴き合うことができるように、「演奏する役」と「聴き役」に分かれて歌ったり聴いたりしながら、対話する場を設定する。</p> <p>○聴き合ったことを基に、声量のバランスを考えたり、ブレスをそろえたりするなど、よりよい表現につなげることができるように、視点を明確にして歌い直してみるよう促す。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">音の重なりや曲の特徴に着目して、各声部の声量のバランスに気を付け、声を合わせて歌っている。 (A-15・イ) (歌っている表情や様子・歌声・発言)</div>		
5分	<p>③ 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲が盛り上がる部分を強く歌っていくと、すてきな合唱になると思った。そんなふうで歌うと、気持ちもよくなる。 ・先輩たちの歌声は、とてもよくひびいていた。人数が少なくても、あんなふうで歌えるようになりたいな。 	<p>○自分たちの表現のよさを実感したり、次時の課題を確認したりすることができるように、歌い直したことを基に振り返る場を設定する。</p>

令和5年度 音楽科実践・研究計画

部 員	○大山 光子、中田 貴広
-----	--------------

研究テーマ
「音楽のもと」を意識し、思いをもって音楽と豊かに関わる子どもを育む学び

1 研究テーマについて

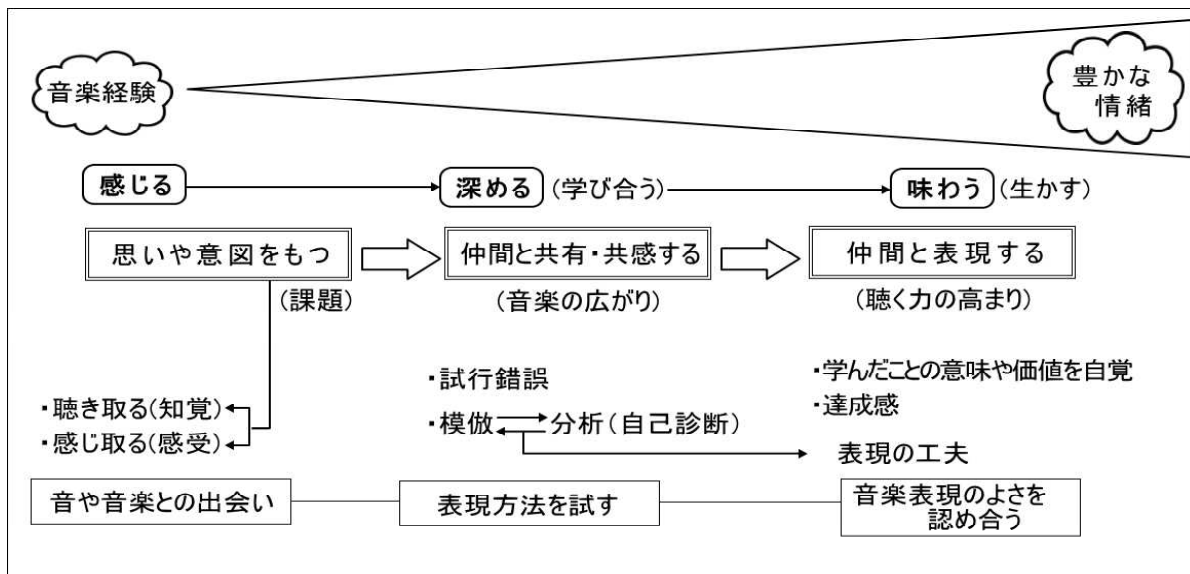
音楽科では、子どもたちが生涯にわたって音や音楽と豊かな関わりを築き、音楽を通じて生活を豊かにしていくための資質・能力を育成することを目指している。

これまで子どもたちは、「楽譜を読む」活動に取り組み、曲と出会った場面で、感じ取ったことの原因を「音楽のもと」の働きと結びつけて考えたり、その働きがどのようなよさや面白さを生み出しているのかを見付けたりする姿が見られた。一方で、「楽譜を読むこと」で新しい発見をしたり、音楽に込められた思いを受け止めたりし、自分の音楽に託したい思いと結び付けて表現しようと試みるものの、それがよりよい表現につながっているのか見直す点に課題が見られた。よりよい表現にするために必須なのは「聴く力」である。その力を育てるためには、音や声で確かめ合う場面を充実することや「音楽のもと」を根拠として、仲間と対話する言語活動が重要である。よりよい表現を目指すには、「音楽のもと」そのものが「学びのものさし」となる。仲間と表現することで得られる達成感や満足感を共有しながら、よりよい表現を実感できる活動を充実させていきたい。

そこで、仲間と表現する過程で、聴き合うことにより音楽のよさや面白さを共有し、「音楽のもと」を根拠としてよりよい表現を目指していく子どもの姿を期待し、実践を積み重ねていく。

音楽科で目指す自律した子どもの姿

- ・「音楽のもと」（音楽を形づくっている要素）に目を向けながら、自らの音楽表現をよりよいものにしようとする姿
- ・感受と知覚の両方を働かせて、思いをもって音楽に働きかける姿
- ・音楽活動を通して仲間と共有・共感するなど、人とのつながりを大切にする姿



図：音楽科 自律した学習者を育てる学習のプロセス

2 研究の重点 <○は具体的な取組の例>

音楽的な「見方・考え方」を働かせながら、よりよい表現を目指す子どもを支えるための手立て

- 思いに合った音楽表現をつくり出そうとする段階で、音や声で試したり修正したりすることを重視し、音楽表現のよさを価値付ける。
- 根拠をもって互いの音楽表現のよさを認め合うことができるように、例えば「演奏する役」「聴く役」になり、聴き合い助言し合える場を設定する。

2023年度 「音楽科の資質・能力」表

※ □は、資質・能力の取り扱い学年，■は、定着学年を示す。

		内 容	学習指導要領との関連内容	1年	2年	3年	4年	5年	6年
音楽科の学びに向かう力、人間性等	ア	自分と周囲が奏でる響き合いの美しさ、心地よさを味わいながら、優しい気持ちで演奏しようとする。	A (1) ウ A (2) ウ	□	□	■	■	■	■
	イ	パートの重なりが作り出す音の重なり的美しさに気づき、互いのバランスを考えながら演奏しようとする。	A (1) ウ A (2) ウ		□	□	□	■	■
	ウ	音を音楽にしていくことに関心をもち、進んでつくる活動にかかわろうとする。	A (3) ウ	□	□	□	■	■	■
	エ	様々なジャンルの楽曲に関心をもち、進んで聴こうとする。	B (1)	□	□	■	■	■	■
	オ	よりよい音楽表現を目指して、課題解決のために、自分なりの目標をもち、互いに支え合いながら音楽活動をしようとする。	A・B	□	□	□	■	■	■

音楽科の各領域の付けたい力 A表現	歌唱の活動								
	1	曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌いたいのか、思いをもって歌う。	1・2A (1) 7	□	■	■	■	■	■
	2	曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌いたいのか、思いや意図をもって歌う。	3・4A (1) 7			□	■	■	■
	3	曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌いたいのか、思いや意図をもって歌う。	5・6A (1) 7					□	■
	4	曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりに気付いて歌う。	1・2A (1) イ	□	■	■	■	■	■
	5	曲想と音楽の構造や曲想と歌詞の内容との関わりに気付いて歌う。	3・4A (1) イ			□	■	■	■
	6	曲想と音楽の構造や曲想と歌詞の内容との関わりを理解して歌う。	5・6A (1) イ					□	■
	7	範唱を聴いて歌ったり、階名で模唱したり暗唱したりする。	1・2A (1) ウ(7)	□	■	■	■	■	■
	8	範唱を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりして歌う。	3・4A (1) ウ(7)			□	■	■	■
	9	範唱を聴いたり、ハ長調やイ短調の楽譜を見たりして歌う。	5・6A (1) ウ(7)					□	■
10	自分の歌声や発音に気を付けて歌う。	1・2A (1) ウ(イ)	□	■	■	■	■	■	

A表現

11	呼吸や発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う。	3・4A(1)ウ(イ)			<input type="checkbox"/>	■	■	■
12	呼吸や発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う。	5・6A(1)ウ(イ)					<input type="checkbox"/>	■
13	互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌う。	1・2A(1)ウ(ウ)	<input type="checkbox"/>	■	■	■	■	■
14	互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う。	3・4A(1)ウ(ウ)			<input type="checkbox"/>	■	■	■
15	各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う。	5・6A(1)ウ(ウ)					<input type="checkbox"/>	■
器楽の活動								
16	曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いをもって演奏する。	1・2A(2)ア	<input type="checkbox"/>	■	■	■	■	■
17	曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもって演奏する。	3・4A(2)ア			<input type="checkbox"/>	■	■	■
18	曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもって演奏する。	5・6A(2)ア					<input type="checkbox"/>	■
19	曲想と音楽の構造（リズムや旋律などの特徴）との関わりについて気付く。	1・2A(2)イ(ア)	<input type="checkbox"/>	■	■	■	■	■
20	曲想と音楽の構造（リズムや旋律、各声部の役割、曲全体の構成の特徴）との関わりについて気付く。	3・4A(2)イ(ア)			<input type="checkbox"/>	■	■	■
21	曲想と音楽の構造（音楽を特徴付けている要素と音楽の仕組みの関係）との関わりについて理解する。	5・6A(2)イ(ア)					<input type="checkbox"/>	■
22	楽器の音色のよさや面白さ、演奏の仕方を工夫することで音色が変わることに気付く。（鍵盤ハーモニカなど）	1・2A(2)イ(イ)	<input type="checkbox"/>	■	■	■	■	■
23	楽器がもつ固有の音色や響きのよさ、楽器の演奏の仕方や楽器の組み合わせなどの工夫で音色や響きが変わることに気付く。（リコーダーなど）	3・4A(2)イ(イ)			<input type="checkbox"/>	■	■	■
24	多様な楽器の音色や響きのよさ、演奏の仕方を工夫することで楽器の音色や響きが変わることを、演奏を通して理解する。	5・6A(2)イ(イ)					<input type="checkbox"/>	■
25	範奏を聴いたり、リズム譜などを見たりして演奏する。	1・2A(2)ウ(ア)	<input type="checkbox"/>	■	■	■	■	■
26	範奏を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりして演奏する。	3・4A(2)ウ(ア)			<input type="checkbox"/>	■	■	■

A表現

27	範奏を聴いたり、ハ長調やイ短調の楽譜を見たりして演奏する。	5・6A (2)ウ(ア)						<input type="checkbox"/>	■
28	身近な楽器に親しみ、音色に気を付けて旋律楽器や打楽器を演奏する。	1・2A (2)ウ(イ)	<input type="checkbox"/>	■	■	■	■	■	■
29	音色や響きに気を付けて、旋律楽器や打楽器を演奏する。	3・4A (2)ウ(イ)			<input type="checkbox"/>	■	■	■	
30	音色や響きに気を付けて、適切な演奏の仕方でも旋律楽器や打楽器を演奏する。	5・6A (2)ウ(イ)					<input type="checkbox"/>	■	
31	互いの楽器の音や伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する。	1・2A (2)ウ(ウ)	<input type="checkbox"/>	■	■	■	■	■	■
32	互いの楽器の音や副次的な旋律、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する。	3・4A (2)ウ(ウ)			<input type="checkbox"/>	■	■	■	
33	各声部の楽器の音や全体の響き、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する。	5・6A (2)ウ(ウ)					<input type="checkbox"/>	■	
音楽づくりの活動									
34	声や身の回りの様々な音に親しみ、その場で様々な音を選んだりつなげたりして音遊びをする。	1・2A (3)ア(ア)	<input type="checkbox"/>	■	■	■	■	■	■
35	見つけた音や工夫した音を使って、その場でいろいろな音を選択したり組み合わせたりして即興的に表現する。	3・4A (3)ア(ア) 5・6A (3)ア(ア)			<input type="checkbox"/>	■	■	■	
36	試しながら音楽をつくる中で、このような音楽をつくりたいという考えをもつことができる。	1・2A (3)ア(イ)	<input type="checkbox"/>	■	■	■	■	■	■
37	試行錯誤しながら音楽をつくる中で、このような音楽を、このように構成してつくりたいという考えをもつことができる。	3・4A (3)ア(イ)			<input type="checkbox"/>	■	■	■	
38	試行錯誤しながら音楽をつくる中で、全体のまとまりを考えて、このような音楽を、このように全体を構成してつくりたいという考えをもつことができる。	5・6A (3)ア(イ)					<input type="checkbox"/>	■	
39	声や身の回りの様々な音の特徴が生み出す面白さに気付くことができる。	1・2A (3)イ(ア)	<input type="checkbox"/>	■	■	■	■	■	■
40	いろいろな音の響きや、いくつかの音のひびきを合わせた音の特徴が生み出す面白さに気付くことができる。	3・4A (3)イ(ア) 5・6A (3)イ(ア)			<input type="checkbox"/>	■	■	■	
41	音を組み合わせでつくったリズムパターンや短い旋律を反復させたり、呼びかけ合うようにしたり、変化させたりする面白さに気付くことができる。	1・2A (3)イ(イ)	<input type="checkbox"/>	■	■	■	■	■	■
42	リズムパターンや短い旋律を同時に重ねたり、時間をずらして重ねたりする面白さに気付くことができる。	3・4A (3)イ(イ) 5・6A (3)イ(イ)			<input type="checkbox"/>	■	■	■	■

<音楽科の学びを支える「見方・考え方」>

a 【共通事項】の「音楽を形づくっている要素」に着目し、その働きの視点で楽曲を感受し、表現すること。

<領域の学びを深める「見方・考え方」>

A表現 b 「音色、リズム、速度、旋律、強弱、音の重なり、和音の響き、音階、調、拍、フレーズ」などの音楽を特徴付けている要素に着目し、それらの要素のよさを味わいながら表現する。

c 「反復、呼びかけとこたえ、変化、音楽の縦と横との関係」などの音楽の仕組みに着目し、それらの働きが生み出すよさを感じながら表現する。

B鑑賞 d 楽曲の音楽の構造（音楽を形づくっている要素の表れ方や、音楽を特徴付けている要素と音楽の仕組みとの関わり）に着目し、曲や演奏のよさを見だし、全体を味わいながら聴く。